

# 令和4（2022）年度 地域連携教員研修 実施報告

実施日：令和4年11月10日（木）

本研修では、地域連携教員の役割や地域の教育資源を生かすための方策・アイデアを学び、学校と地域が連携・協働した教育活動について考えました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者間の間隔を十分取るなどの対策をとり、実施しました。

## ○ 説明「地域連携教員の役割について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事 田村 充

昨今の社会の変化に触れつつ、なぜ学校と地域の連携が必要なのかという問いかけから始まり、地域連携教員の役割について話がありました。受講者は、プランナー・コーディネーター・アドバイザーという地域連携教員に求められている役割を確認しました。次に、「地域連携教員としてのチェックリスト」を用いて受講者が各項目のチェックを行い、地域連携教員としての自分の強みと弱みを把握しました。地域連携教員として、今後どのような活動を行えば良いのか示唆を得る機会となりました。

## ○ 講話「地域の状況を踏まえた、地域資源の生かし方～学校と地域の連携・協働のさらなる深化に向けて～」 国立教育政策研究所総括研究官 志々田 まなみ 氏

はじめに、学校運営協議会と地域学校協働活動に関する説明がありました。特に、両者の実際に行われている活動内容と本来求められている役割の違いについて話があり、その違いに対応しつつ児童・生徒の学びを支援するコーディネーターとしての役割が地域連携教員に求められているという指摘に対し、受講者は熱心に耳を傾けていました。また、地域連携教員の面白さは5年後や10年後の児童・生徒の姿を意識し、地域の教育資源を活用した活動を計画することにあると話がありました。

## ○ 研究フォーラム「本県の地域連携の実際～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の取組～」

芳賀町立芳賀南小学校教諭 那花 和哲 氏、宇都宮市立清原中学校教諭 鈴木 秀隆 氏  
県立足利工業高等学校主幹教諭 庄司 一廣 氏、県立南那須特別支援学校教諭 大谷津修司 氏  
総合教育センター職員

上記4名の地域連携教員が登壇し、各学校の取組内容とその成果、取組を継続・発展させるために必要なことについて話し合いが行われました。一昨年度から続いているコロナ禍の中で、工夫しながら学校と地域の連携に努めていることについてもそれぞれ話がありました。また、登壇者と受講者の熱心なやり取りがあるなど、受講者にとって気づきや学びの多い機会となりました。

## ○ 研究協議「地域連携教員として私が取り組むべきこと」

総合教育センター職員

校種毎のグループとなり、説明、講話、研究フォーラムから学んだこと、地域連携教員に求められていることや大切なこと、これから地域連携教員としてどのようなことに取り組もうと考えているかについて、受講者同士で話し合いを行いました。また、各学校で取り組んでいることについて情報交換も行き、受講者は積極的に意見を交換していました。



### ☆受講者の声（アンケートから）

- ・地域連携教員の役割を再確認することで、改めて地域連携教員として業務を全うする自覚を強くしました。
- ・地域連携教員として、学校運営協議会と地域学校協働活動への関わり方を学びました。今後、児童・生徒の学びを支援するために、私なりの学校と地域の連携活動を構築したいと思いました。
- ・教育行政を担う職員として参加しました。地域連携教員の役割を学ぶことができ、市町教育委員会と協働できる可能性を探りたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp